



令和4（2022）年度「不登校を考える学習会」（第2回）を行いました。

2022.10.15(土) 小郡市人権教育啓発センター

演題：不登校支援の輪を広げよう

講師：不登校生保護者の会「ぼちぼちの会」会長 きむら もとや
木村 素也 さん



今回の学習会は、木村素也さんを講師に迎えて学習会を行いました。木村さんは、元中学校の校長先生で、現在も多くの不登校の生徒や保護者に関わり、各地で講演を行っておられます。「またお話を聴きたい」という声も多く、最近では毎年のように来ていただいております。（昨年のお話の内容も小郡市のホームページに記載していますので、ご覧ください。）

また、木村さんのお話について、不登校経験者の薫さん（29歳・女性）にも、ご自身が育ちの中で考えておられたことを中心にお話いただきました。

学習会の内容を以下に記します。

○ 不登校を取り巻く最近の情勢から

はじめに、不登校を取り巻く最近の情勢についてのお話がありました。ここ数年、不登校の子どもが増加し続けていること、これまで中3が最多だったのが今回初めて中2が最多になったこと、これまでは不登校生を生まない施策が中心だったのが、不登校になった後のケアのところでは文部科学省ではその審議会での協議が行われている（高校のように、授業開始時刻や単位の取り方など多様なスタイル（環境）の特例校をつくる）というお話がありました。

また、ユニセフの幸福度調査によると、日本は全体では真ん中あたりの順位ですが、身体的幸福度が1位なのに対し、精神的幸福度は下から2番目と、とても極端な結果となっています。大人が本人の決断を尊重することや、じっくり考える間(ま)を与える（待つことを大切にする）、「今できること」に目を向ける、学力などで人との比較を判断基準にしない — 等が精神的幸福度を上げる上で大切です。

○ 「ほめる」というよりも「認める」大切さ

不登校には、①環境的要因と②個人的要因があります。①については、例えば高校に進学するとき、本人に合った授業時数・開始時刻・形態（全日制か定時制か通信制か）があります。「なぜ高校に通うのか」「高校に期待していることは何か — それは親子で一致しているのか」などをよく話し合うことが大切です。「全日制高校に行くのが当たり前」という前提で話すと子どもはきついです。

②については、自尊感情が下がることの影響が大きいです。学校に行けないことを本人のせいにして、よってたかって本人を変えようとするきらいがあります。子ども自身は、学校に行けないことを「みんなはできるのに自分ではできない」と感じ、自尊感情が下がることが多いので、自尊感情を上げる手立てが必要です。具体的には、家庭のことや地域の行事等で役割を与える、今できることに目を向けて今できていることを認める（つい大人はひとつのことができたなら次を求めてしまうが）、本人の決断を尊重する、学力などを人との比較で判断しない、じっくり考える機会や時間を持つ（「急げ」を口癖にしない） などで。

○ 不登校の経験から

学習会の後半は、小学校のときから不登校を経験された薫さんにお話いただきました。

小学1年生のとき、ささいなことから教室に入るのが怖くなった。保健室登校をしたが、学習はしたかった。6年生のときに転校後、中学校卒業まで通学できた。全日制高校で再び不登校になった。原因は今もわからない。弟が小中高と順調だったので孤立感を感じた。親が期待していたであろう私と現実の私がかげ離れていることを受け入れられないことがストレスになった。

博多青松高校（通信制）に再入学し、自分のペースで学習できたことや不登校の支援施設で心理士から自分の話を聴いてもらったこと、留学で素直な感情を出していいと思えたことが大きかった。生きづらさの原因は、「自分の性格」ではなく「生活環境」だと思った。



【次ページに続きます】

それから、大人の方をお願いしたいことを話されました。

- 挑戦できる環境を整備してほしい
- 子どもの「好き」や「興味」を否定しないでほしい
- 自分自身を責め過ぎている保護者の方は自分を責めないでほしい

最後に、「道は1つではない。自分軸で生きられる環境を整えることを大切にしてほしい。」と言われました。

フロアからは、祖父母の立場からの孫への関わりや、支援施設の存在を知った経緯、学校で自尊感情を下げないために大切にしている視点に関する質問がありました。「ほめる」も大切だが「認める」ことの大切さ、保護者が支援する施設や親の会などの情報を得ることの大切さについて話題になりました。

参加者アンケートより

- 日々、子どもたちにどう接していいかわからなかったので参加しました。子育てにおいてもたくさんヒントをいただきました。自尊感情においては、自分自身についてもプラスの行動をとっていきたいです。まわりの保護者や先生方、お子さん方みなさんに聴いてもらいたいお話でした。ぜひ、小学校や中学校にも講演に来てください。
- 木村さんのお話を聴いて、我が子のことを言われていると感じました。学校に行きたいけれど行けなくて苦しむ姿を見て、親としてどうすれば良いかもがく日々が続いています。まず、今できることを子どもに決めさせて見守るところから始めてみようと思いました。
- 自尊感情を向上させるのは、子どもに限られたことではなく、大人も含まれるように思えました。
- 子どもの自尊心を大切に接し、地域でつながって見守っていききたい。勉強になりました。
- 体験談を聴いたことは良かったです。不登校経験の子を持つ親にとっても、子どもを支援するにおいても、とても心強くなるお話でした。